



『しまの宝』

第19号 R3.1.8発行

文責：校長 日高 洋子

謹賀新年 初春のお慶びを申し上げます

今年の始まりは大雪でした。学校の始業式は登校時間を遅らせて行いました。雪で帰って来られない児童生徒もいましたが、残っていた子ども達は元気いっぱいでした。

【始業式校長あいさつから】

2021年、今年の干支は、丑（うし）ですが、丑は中国で生まれた漢字で、本来の意味は「からむ」という意味があり、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。これを後に覚えやすくするために動物の「牛」の意味が与えられました。

「牛」は古くから食牛や乳牛、耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在として重要な生き物でした。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前振れ（芽が出る）」を表す年になると言われています。

2021年が良い年になるようにするには、明確な目標をたてることです。3学期は、学年のまとめの学期ですので、学習面、生活面それぞれに立て確実に実践してほしいです。

2学期の終業式に冬休みの目標として、2つの頑張ってもらいたいことを話しました。一つ目は、家族の一員としての役割を果たすために家の手伝いを進んでやること。ポイントは「進んで」という所です。二つ目は、本をたくさん読むこと。中学生は新聞を隅々まで読んでみることでした。ポイントは「たくさん」と「隅々まで」です。家庭ではできたでしょうか。

さて、3学期は先ほども触れましたがまとめの学期です。3月に自分を振り返ってみた時に、何ができるようになってきているか、どんなところが変わったか、次の目標を見ることができているかがはっきりわかっていなくてはなりません。その

ためにも、この3か月はとても大切な時間だと思います。簡単なことはすぐにできるようになるので、すぐに飽きてきます。

しかし、手に入れることが難しければ、一生懸命になります。一生懸命にならなければ、手に入らないものを、しっかり手に入れてほしいと思います。

それができれば、今までの自分とは違う自分になっていると思います。3月にみなさんがどのように変わったか、その姿を見るのが楽しみです。3学期も一緒に頑張りましょう。

冬休みの様子

冬休みは、帰省しなかった子ども達が校務員の田中さんのお手伝いで学校の校門に飾る門松づくりを行いました。

最近では門松をつけるお宅も減ってきて、子ども達も興味津々で参加しました。事前に竹を切り出して、縁起の良い福笑いの形に切り込みを入れたものと、松や南天の実などをくるんで立派な門松が完成です。

門松づくりは組み立てる作業以上に準備が大変で、簡単なものではありませんが、門松のできあがる工程を見ること、少しでも手伝いに参加できたことは、子ども達にとって、短い時間だったと思いますが、大きな経験になりました。



感性を発揮する 児童の作品

12月の長崎新聞「レッツ575」の俳句を見ても、真っ直ぐで素直な4人の子どもの感性があふれ出す作品が、掲載されていました。

【はしゃぎ出す 天気予報の 雪マーク】 南那美

だんだんと寒くなる冬の季節を天気予報の雪マークで表しています。毎朝、あいさつ運動に短パンでやって来て「おにごっこしよう!」とよってくる元気な南那美さんです。

【友達が くれたリンゴの みつあふれ】 蒼士

11月に福太郎さん(6年生)の青森にいる祖父母様からおいしいリンゴをたくさん送っていただき、子ども達は2個ずつ持ち帰りました。五島から遠い青森から届いたリンゴがありがたいという気持ちと、とてもおいしかったという気持ちで「あふれ」ている蒼士さんです。

【葉が凍る 自然の中の 押し花だ】 琉嘉

海、川、山の自然が大好きな琉嘉さんは久賀の自然を本当に満喫しています。琉嘉さんらしい視点で、久賀の生活を表しています。群馬の友人や家族に久賀の自然を自慢してほしいです。

【12月 走ると肺が 凍りつく】 福太郎

小学生は12月の八朔ロードレースに向けて、朝の練習を頑張りました。そのレース直前の練習はとても寒い日が続きました。それでも、やめることなく黙々と練習した中で思いついたのでしよう。次の目標を目指してまた走り出します!

感性が豊かなので上手に作れるのか、作っているうちに、感性が豊かになっているのか…。

実は、その両方なのだと思います。先生方の指導もありますが、俳句の材料になる生活が久賀にはたくさんあります。それを見落とすことなく、あれやこれや自分の感じたことを俳句にする中で、感性が磨かれていると思います。

これこそ「久賀だからできる教育」の一つであると確信しています。今、季節は寒い冬ですが、暦の上では春になります。これから、クルクルと変わる季節や、学校の行事について子ども達の俳句を通して、今後も久賀の良さや子ども達の生活をみなさんにお伝えできればと思います。

コロナ禍で・・・

12月末には餅つきをする家庭も多い久賀ですが、優樹さんからは「先生方にぜひ!」と全職員へ、かんころ餅や丸餅をいただきました。かんころ餅は各家庭の味が違うものですが、「大櫛家」のおいしいかんころ餅を堪能しました。ごちそうさまでした!

さて、全国的な新型コロナウイルスの感染が増加する中、3学期の学校の大きな行事として、3月に「卒業式」があります。昨年度は五島市の小・中学校では縮小された式が挙行されました。

「今年こそは!」と思っていますが1月現在の状況ではどうなるかわかりません。

本校は6年生の福太郎さん、琉嘉さんの2人が小学校卒業で、式が予定されています。実施の内容等については状況を見ながら皆様にお知らせしたいと思いますのでよろしくお願い致します。

また、例年なら、新規のしま留学の見学者がたくさん来島して、複数名のしま留学予定者の見当がついているはずですが、コロナ禍で1組も見学者を受け入れることができていません。このままでは、来年度のしま留学の新規受け入れはゼロということになり、学校の存続が心配されます。一刻も早い終息を願ってやみません。

しま留学児童生徒の帰省について

冬休み中に、6名の児童生徒がそれぞれの自宅に帰省をしています。全国的に新型コロナの感染が増加している中、夏休みにも帰省がかなわず、実親から遠く離れて生活している子ども達の精神状態としては、限界にあり、帰省することになりました。

学校では、帰省について「外出を避けること」や「新しい生活様式」「感染予防策について」を厳しく指導し、感染防止を強く意識させて帰省をさせています。しかし、子ども達の感染について地域の皆様のご心配は大きいと思われまますので、子ども達には、帰島後のPCR検査を受けること、結果が陰性になったとしても、検査後から1週間の自宅待機をする、という対応をとることになりました。学校としては、子ども達の学習が遅れないように、自宅での課題を準備し、家庭訪問や電話連絡を実施します。また、登校後に必要な補充学習を行い、「学び」を確保します。ぜひ、地域の皆様のご理解をよろしくお願い致します。